

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602348		
法人名	医療法人 三井会		
事業所名	グループホーム くましろ式番館		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市北野町石崎162-1 (電話) 0942-41-3398		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年12月3日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(H21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、訪問看護ステーション「野いちご」、黒岩歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域のニーズに応じて、法人の2番目のグループホームとして設立された。母体病院が地域に溶け込んだ存在であったことから、当初から近隣との繋がりが豊かな恵まれた環境にある。近所の方がよく訪れてくれたり、利用者も毎日近くを散歩して挨拶を交わしたりと穏やかな日常がある。散歩のついでに法人の農園に寄り野菜を収穫し、近くの畑の方からも野菜や果物を頂いたりと入居前と変わらない生活が自然に営まれている。川のほとりに立地し、前の道路はゆるやかなカーブになっていて車の往来が多いが、ホームの中は静かで落ち着いた雰囲気である。運営者、管理者の「あたりまえの生活を送って欲しい」という強い信念の元で、職員一丸となってそれを実践していこうという気概にあふれた、志とケアの質の高いホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では同業者との交流が課題として挙げられていたが、評価終了後、全職員が交代で他のグループホーム見学の機会を持った。看取りの仕方、勉強の内容に加えて新聞紙1枚も無駄なく使うことなど、自分たちのホームに活かすことが出来る学びを得て早速ケアに取り入れている。また、家庭的な自分たちのホームのよさを再認識することにも繋がった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、各職員が普段感じていることについて意見を出し合い、管理者がまとめたものを、さらにミーティング内で検討した。普段行っているケアについて振り返りの機会とすることで、評価の意義を共有することが出来ている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は地域の民生委員、区長、市職員、包括支援センターの職員に加えて利用者家族という構成で、2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所から現状報告や行事予定の報告がなされ、災害対策の問題では消防団への協力依頼を請け負っていただけするなど、地域からも協力的な提案がなされており、出席者同士の活発な討論の場になっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族から利用者との接し方についての相談が管理者や職員に寄せられ、管理者、職員は内容を傾聴し家族の安心を支えている。意見箱を設置しているが、なかなか意見が寄せられないことがないため、家族の思いや運営に対するご意見をケアに活かすために法人とともに家族アンケートを実施する取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>設立時から地域の支えに恵まれている環境である。現在も自治会に加入し回覧板も利用者と一緒に次にまわしに行ったり、ご近所への散歩時に野菜や果物を頂いたり、地域の行事に参加したり逆にホーム行事にお誘いするなど、地域との交流が日常的に、かつ活発に行われている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『普通の暮らしを当たり前で過ごし、みなさんとの「絆」を深めていきたい』という理念には、利用者のみならず地域の方たちも含めた絆を深めていきたいという思いが込められている。母体病院の理念を基に、設立に関わったメンバーで考えた事業所独自の理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はミーティング等で唱和し、共有している。日々の取り組みの中で、3つの基本方針(持っている力を引き出す、地域とのふれあいを大切にする、個人の尊厳を尊重する)を定めてサービスの指針とし、当たり前の生活を送っていただけるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており回覧板を利用者と一緒まわしたり、散歩時に野菜や果物を頂いたりしている。また、昔のなつかしい渡しの名残り行事への参加や小学生の見学授業の受け入れを行うなど、地域との交流は日常かつ活発であり、ホームは地域の一員として溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義について理解し、自分たちの行っているケアの振り返りの機会と受け止めている。前回の課題については新入職員も含む全員が共有し、他のグループホームを見学する取り組みを行った。新聞紙を使ったほこりの立たない掃除方法や汚物処理の工夫等、そこで学んだ良い面を取り入れており、新たな気づきが質の向上に繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの現状報告や行事予定の報告を行うことはもちろんのこと、災害対策の問題では、消防団への協力依頼を請け負っていただけるなど地域からの協力的な提案が出されており、出席者同士の活発な議論の場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市のグループホーム部会で市の担当者も参加しての情報交換の場があり、支援に活かすことが出来ている。また市役所へ相談のため出かけ連携を図るようにしている。市の担当者からも、「こんな本を読んでみては？」と提案があったりするなど、市とともにサービスの質を向上させるべく取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族の目にふれやすく取り出しやすいようにと考えて玄関にパンフレットを置いている。現在は制度を必要とする方はおられないが、職員は勉強会を行うなどして、必要な時に対応できるよう準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行している「横丁だより」に載せている利用者の写真は、家族からの要望で掲載を増やし、それを活用して様子を話したり、遠方の方には送付したりしている。金銭管理については出納帳のコピーに領収書を添付したものを渡し、受け取りサインをもらっている。また、職員の異動があった時はホームに来られた時に口頭でお知らせしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から利用者への接し方等について相談を受けるなど、日ごろから意見や思いを話しやすい雰囲気がある。また、行事の後など、ご家族が多数集まる機会をみつけて家族会を開催し、意見を言える場面作りに努めている。玄関に設置している「意見箱」には、ご意見が入ったことはない。		安心して入居に至っている経過があるので、「意見箱」に投函する必要もないと考える家族が多いと思われるが、更なるホーム運営の充実を目指して家族の意見や思いを知るために「家族アンケート」を実施し、率直な意見や提案を運営に反映させられるよう取り組まれることを期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一度退職しても様子を見にきてくれたり、復職してくる人もあるなど、アットホームな職場環境が離職を少なくすることにつながっている。離職や移動については口頭で利用者には伝え、ダメージを必要最小限に抑えるための配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は法人で行い、性・年齢を問わず、また資格や経験がなくても人柄ややる気を重視して選考し、グループホーム採用予定者は管理者も必ず事前に会うようになっている。人材育成については長期的にとらえ、月1回は勉強会を行い資格を取得できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会を実施し、人権について積極的に学ぶ機会を確保している。また、接遇に関しては利用者家族や地域の方々からいつも見られているつもりで姿勢を正すことを心掛け、茶わんの持ち方、箸の使い方も気遣ってある利用者がおられることも意識しながら、日々の支援に取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に沿って研修が実施されるとともに、月1回のホーム内の勉強会、病院合同研修も行われている。外部の学習案内は事務室に掲示され希望するものに参加出来る。また今年度よりKYT(危険予知トレーニング)学習を取り入れ、指導者に月1回きてもらい食事をともにしながら、転倒等のケアの最中に起こりうる危険を予防する取り組みを行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市グループホーム部会に参加して連携を強めている。前回評価を受けて他事業所への見学を経験したことにより職員に新たな気づきが生まれ、他の事業所の管理者から相談を受けたりするなど、相互訪問も活発に行われておりサービスの質向上につながっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に居室、トイレ、風呂場など見学してもらい、くましろ式番館の雰囲気を知っていただいた上で他の施設見学もすすめ、その方に合ったホームへの入居を支援している。入居が決まったら家庭を訪問して居室等の確認や生活歴の聞き取りを行い、今までの利用者の生活状況に近くなるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除・テーブルマット並べ・洗濯物干しやたたみ・テーブル拭きなど、出来る範囲で職員と利用者が一緒に仕事をこなし、農園で育てた野菜での漬物付けを教えてもらったりするなど、利用者から学び支えあう関係を築いている。調査当日も、職員のエプロンのボタンのかけ違いを利用者が直してあげるなど、本当の家庭のような日常があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にも相談しながら、出来る限り一人ひとりの思いや希望を聞く努力をしている。また、意思表示の困難な方においてはわずかな反応や仕草を見逃さず経過記録に書き入れて記録に残し、対応を検討するようにしている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者がケアチェック表を基に原案を作成し、ケアマネにチェックしてもらってケアプランを作成している。その後ご家族にも見てもらい、同意を得るようにしている。毎日の申し送りやカンファレンスにて気付きなどを伝え合い、職員間での情報の共有に努めている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行うとともに、状態が変化した場合にはその都度サービス担当者会議を開催し、家族の意見も踏まえながら現状に即した計画を作成している。各ユニット会議で利用者の状態の変化を細かくキャッチするなど、職員間の情報交換が計画の見直しに活かされている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近所の一人暮らしの方が災害時に避難宿泊を希望されたり、家族不在時に若い孫娘さんが利用者の居室に宿泊されることもある。また、利用者を結婚式に参加させてあげたいという要望に応え、職員が式に付き添うなど様々な思いに応えて柔軟な支援をしている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医、法人関連病院、往診、いずれも選択することができ、本人・家族の希望を尊重し、馴染みの関係が崩れないようにしている。通院の場合は職員が付き添い、適切な医療が受けられるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に指針を説明して同意をとり署名・捺印を得ている。利用者の重度化に伴い今までに8名、今年だけで4名の方の看取りを経験した。食べられるものを食べられるだけ食べて欲しい、穏やかな最期をホームで迎えて欲しいというご家族の願いを受け、密に家族や主治医と連絡を取り合いながら全員で方針を共有して取り組んでいる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域の方の出入りも多いため、設立時から居室入口の名札は表示しない、書類は鍵のかかる事務室の引き出しに保管するなど、個人情報の保護に配慮している。言葉使いや接遇についても日頃から気をつけるなど、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、十分注意している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごせるよう、起床時間に合わせて朝食を提供するなど、一人ひとりに職員が合わせて暮らしている。大まかな1日の流れはあるものの、その日の希望に添った支援がなされ、経過表(個人台帳)に記載するようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時に提供している「かます寿司」や「おはぎ」は地域で食べ継がれてきたものであり、皆が楽しみにされている。それぞれの状態に合わせて刻み食等も提供されている。なるべくお箸を使って自分で食べていただけるよう取り組んでおり、手が止まったらさりげなく職員が介助している。いろんな話題を出しながら利用者と職員が同じものを食べており、食事を楽しむことができている。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせて、いつでも入浴が可能である。入浴を拒否される方には相性のよい職員が担当するなど工夫をしている。また仲の良い方同士で入られる場合もある。夏は1Fに設置している露天風呂も利用することができる。現在は寒いいため、露天風呂を利用して足湯を行い温泉気分を味わえるよう提案したりするなど、楽しめるように工夫しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみは、職員との連携で楽しみながら役割として取り組んでいる方がいたり、食事後の片付けも食器を重ねたり車椅子利用の方でも足の上に載せて運ぶなど出来る事を職員も声をかけながら一人ひとり工夫してさりげなく行われている。また、季節ごとに外出計画をたて、弁当持参で花見にでかけたり、音楽療法を取り入れて好きな歌を歌ったりするなど、楽しみごとの支援が行われている。		
28	63	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよくて風のない日は少人数に分かれて散歩に出かけている。ホームの前の道路は交通量が多いため、わき道に入って畑に寄り野菜を収穫したり、近所の方からも採れた野菜や果物を頂いたり、地域の方々との交流しながらの支援となっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は7時以降は防犯上鍵をかけているが、昼間はかけないことが徹底されている。利用者の出入りは、エレベーターホールに設置された玄関風のドアの音で確認し、見守りを行っている。万が一無断外出が起こった場合に備えて、利用者の顔写真と身体的特徴を記した書類を準備し、近隣の方や法人関連施設と連携して対応にあたれるよう取り組んでいる。		
30	73	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の方や消防署も参加しての防災訓練を年2回実施している。今年は夜間想定の実践を実施し、運ぶのにはシートでなくふとん使用がよいこと等気付きにも繋がった。火事だけでなく地震、台風、水害にも備え、水の確保も行っており、避難経路の確認や閉じ込めを防ぐために4ヶ所の出入り口を開放することなど、細部にわたって徹底を図った。職員は他に災害訓練の勉強会も実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの食べ方や量を確認し声をかけながら一緒に食べている。新鮮な自家製の白菜・大根の漬物や梅干も食卓に並べ、話題もはずみながら全量摂取、水分の摂取が出来るよう見守り、支援している。また、食事摂取量についてはチェック表を用いて記録しており、水分に関しては状態が悪い方について確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓から光が入って明るく、ホーム玄関と食堂、居室へとつながり広さと一体感が感じられる。ベランダでは野菜の栽培が行われていたり洗濯物が干されたりしており、廊下や壁には利用者と職員と一緒に考え工夫して作った季節感あふれる飾りがあり、家庭そのものの雰囲気である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス以外は、写真やご本人が家で使われていた馴染みのもの、鏡や小物などが持ち込まれている。テレビを置かれている方や横丁だよりの写真を利用したカレンダーを飾ってある方などご本人や家族の希望でその人らしく居心地よく過ごせる居室になるよう工夫されている。		